

して、人とポテンシャルと進展を結びつける“LINKING、 PEOPLE、 POENTIAL AND PROGRESS”をテーマに、2月21日から24日の4日間、ネバダ州ラスベガスの VENETIAN-PLAZZO-SAND EXPO センターで開催された。ラスベガスは家電ショーなど20万人規模のカンファレンスを行うことが出来、今回の会場は大規模なホテルとコンベンション施設が複合化され、1階から5階の会場で行われた。秋に大統領選挙を控え医療問題に関心が高まる中で、20年かかっても実

(10)臨床判断支援システム (対象疾患は病院の状況に応じて定めて良い)

(11) 患者への診療情報の電子的な提供 (検査、プロブレムリスト、投薬内容、薬剤アレルギー、退院時要約、処置を含む)

(12) 患者の要望に応じて、退院時指示の電子的な提供

(13) 医療機関、関連機関間における重要な診療情報の電子的な相互利用が可能であること (例:プロブレムリスト、投薬内容、薬剤アレルギー、検査結果)

(14) 適切な方法での情報保護

選択項目

(1) 薬剤フォーミュラー参照

(2) 65歳以上では advance directives (意識不明時の事前指示)

(3) 検査データの EHR への構造化された保存

(4) 質改善、臨床研究などのため患者の病態別の検索が可能であること

(5) EHR を用いて患者に必要な教育資源を明らかにし、必要な場合に提供ができること

(6) 他施設よりの患者受け入れ時の薬剤内容の確認 (medication reconciliation)

(7) 他施設への患者紹介時の診療情報要約の提供

(8) 患者のワクチン接種情報が提供可能で、法令等の求めに対してデータ提供・登録を行うこと

(9) 患者の検査データが提供可能で、州法等の求めに応じてデータ提供を公衆衛生当局に行うこと

(10) サーベイランスデータが提供可能で、法令等の求めに応じてデータ提供を公衆衛生当局に行うこと

現できなかったことをこの2年間で実現したとの意気込みのもと、MU が浸透し成果が出始めた上げ潮の中での開催となった。

また、今年度は HIMSS 会長がシーメンスグループの医療関連会社の政府と産業関連担当の女性シニアディレクターCharlene Underwood になり、個人会員が30000人から44000人(+14000人)、企業会員数が470社から570社(+100社)、団体の加盟数が85から170(+85)に急膨張し、参加者が過去最高の35000人(昨年31000人)を超え、展示も1100社(新製品200+、新規出展300+社)と過去最高を更新し、会員や参加者からの要求が多様化する中、新たな経営者視点の企画を行い、モバイル用 Web サイトや参加者個人用にガイド編集できる MYHIMSS12、展示内容参照用のオンラインバイヤーガイドを準備、カンファレンス会場では Wi-Fi を強化し参加者バッジの QR コードスキャンサービスでペーパーレスカンファレンスの円滑化を一層進め、会場内の Kiosk ナビゲーションの強化も図っていた。特に今回参加できなかった会員への Web での基調講演他をコンパクトにして体験できるバーチャル HIMSS を支援し次回ニューオーリンズでの HIMSS13 開催も決まった。今回のカンファレンスと展示の視察は、過去2回のARRA/HITEC法のもと、MU 中心の各種施策成果と新たな動きの確認のために事前に重点化し分担を決めていたが、今年は内容がモバイルヘルスや医療機器インテグレーションを新分野に加えさらに幅広く多様化し、教育セッション239件の1/4が分類および内容が発発直前でも決まらなかったため、新たな気持ちで参加者の関心を中心に挑戦することになった。また、先端病院視察は近くに適切な病院がないなど、例年 HIMSS が準備している病院視察もないためカンファレンスと展示に重点を置き、昨年に引き続き当地で有識者との討論を行なった。

(1) カンファレンス関係

昨年は新企画として、ツイッターなどのソーシャルメディア、無線やモバイルコンピューティングなど新技術をまとめ HIT X.0 とし、政府の CTO も登場し技術面の抜本的変化を象徴し好評を博したが、今回は新

会長により大規模化している会員や参加者への対応に大幅な整理統合を行いカンファレンスの参加者の人的つながりを促進するための朝食、昼食やデナー等きめ細かなアレンジにより便利で喜ばれる新たな工夫が多く施された。また、内容的には医師、看護師向けのほか関連幹部に重点を置いたワークショップやシンポジウムなど2日間の有料プレカンファレンスの他に通常のカンファレンスと展示に並行して、ROIに関心の高い幹部向けに、リーダ&イノベーションプログラムカンファレンスセッション(有料や招待者のみ)で区分設定し、政府医療 ICT ビジネスに関心のある担当向けに別途かなり高額な参加費で先端ビジネス開拓ワークショップを開催、欧州やアジアパシフィックでグローバル視点での医療先行国(デンマーク、ドイツやシンガポール)の事例紹介、技術情報ガイド教育フォーラムとして看護実践などを体系化した TIGER 機構の紹介など幅広い新たな企画が行なわれていた。昨年新たに取り入れられたソーシャルネットワーク関連は既に浸透してきているため今年は全般的に規模を縮小していた。また、政府の責任で推進している象徴として、政府イニシアティブの企画が行われ、政府関連のプロジェクトの成果や今後さらに連携を進めていく内容がタウンミーティングとして多く行われ、おおむね予定通り進み、次の段階に向けた計画の説明行われ、内容も整理統合され量と質両面で進化していた。さらに、昨年オバマ政権のオープン政府の方針により、国責任プロジェクトを推進するため、国の重要プロジェクトを担当する MITRE 社の参加と大幅に体制が強化された国家調整官事務所 ONC と一緒に多くの重要カンファレンスをリードし目立っていたが、今回は MU フェーズ1の成果のPRとフェーズ2の最終ルール発表が中心課題となるため、今回はプレゼンを限定し昨年緊急プロジェクトとして医療提供者の70%を占める紙やFax使用医療者の対応として進めたDirectプロジェクトを適用した6カ所の適用者のパネルセッションが行われ、死活的に重要な役割を果たしたことが報告され、新たなユーザ利用性向上のオープンソースツールの説明を行うなど地味な感じになった。しかし、この the Direct の成果による急速な進展と

さらに NC 参加の ONC、CMS のタウンミーティングの後の基調講演などを通じ、the Direct のプロトコルが NwHIN にも実装され、MU ステージ1で認証を受けた EHR 製品(モジュールを含む)は再度認定が不要とのことで、参加者が賢い選択と絶賛することになり、HIMSS12 全体を盛り上げるものになった。

恒例の教育セッションの開始は21日のオープニングセッションは、メタリックな服装をした華麗な美女によるバイオリンの生演奏が響き渡る中、健康美を誇る美男美女のダンサーがスクリーン上と舞台とで連携しながらの舞踏で、バーチャルとリアル of HIMSS を表現して見せた。その後今年度の HIMSS の女性会長が活動と成果を報告で、医療 ICT 関係者が大変でも患者ケアの質向上のために今後医療機器の標準化や相互運用が必要で、医療費の高騰を抑えるためにも医療 ICT は重要な役割を果たすことを強調し新たにモバイルヘルスイニシアティブ設置を報告し MU インセンティブの支払いが\$3.1B に達したことなどを報告した後、開会基調講演者である Twitter 社の共同創業者の一人である Biz Stone を紹介しビデオ画面が流れる中 Biz が登場し子ども時代の話から始め、19歳で Twitter を始めるきっかけとなるエピソードを絵で鳥が彼の頭上に糞をし、鳥の群れが飛びながら一点目指して収束する様子を使いユーモアたっぷり会場を笑いに包みながら、背骨を電氣的な衝撃が貫きしゃにむに事業を立ち上げた様子などを話し、人に頼らず自分で機会を作り、技術の力を人の力に変え、失敗しても創造性はやり直しの効くリソースであり、派手にやりながら楽しく生きることを自らの体験として話した。直接、医療に関する話ではなかったが、医療改革も多くの関係者の力が一つにまとまっていけば変えることができることを示唆していた。23日の基調講演は HIMSS の副会長の女性が HIMSS の臨床面からの詳細な活動と実績報告の後、基調講演者の ONC のチーフで国家調整官 Fazard Mostashari が紹介ビデオ放映の中登場した。2002年に CDC の公衆衛生畑からニューヨーク市の保健部門に移り病院と公衆衛生とのつながりが欠けていることに愕然とし、幅広い関係者と会い交流し助け合いながら色々挑戦を進め、2009年に国の関連に移り MU

の定義を含め確立を進める中でONCの副NCに就任した。MUは医療関係者の共通認識のためのプラットフォームのために確立した。お蔭で20年かかってもできないことを2年で行え、来年中に患者が単一インタフェースでデータを利用できるようにすると宣言した。24日の午前の基調講演は選挙を控えて、ABCネットワークのアンカー解説者をモデラートに、元ブッシュ政権のメンバーで女性の2番目の報道官を務めた政策戦略家と民主党の大統領の選挙にかかわったことのある政策戦略家の3人で、まず3人それぞれが自己紹介をし、大統領選挙の舞台裏から医療改革まで興味深く話し合った。それぞれ生き生きと楽しみながら、①リーダーシップ、②政治的妥協、③オバマケア、④オバマケアへの反対、⑤EHRについて、⑥医療改革の便益等が話し合われた。午後の最後の基調講演はより健康で長生きのできるBlue Zoneの研究家が、調査したイタリア、日本の沖縄や実際にプロジェクトを進めた米国のミネソタの話などスクリーンを使い分かりやすく説明し好評を博していた。その他の教育セッションは全体での約300近くの構成はほぼ同じなか、医療機器インテグレーションやモバイルヘルスマHealthなどが新規に追加され、新たなテーマに沿ったテーマが準備されていた。

(2) 展示関係

展示会社数が10%程度増加しビジネスの拡大が進む中で、大規模な展示会場は2フロアで1、2階からのアクセスの他展示フロア中央でエスカレーターによる移動ができるようになっていた。2階は中心的なフロアとつながるメイン会場で、従来に近い各社の展示と特設展示として、医療グループと患者グループの契約で医療を行うACO/価値による購入、臨床と事業分析、調査、クラウドコンピューティング、ICD-10、医療機器インテグレーションやモバイルヘルスなど重要なテーマをワンストップで関係者が対応する一角ナレッジセンターの設置されていた。1階では、今まで展示の柱として充実されてきた各社の製品の相互運用性をPRするインタオペラビリティショーケースが最大の展示スペースを確保し、ここを見学するだけでもMUの医療ICTを実感できるよう

工夫し、規模が大幅に拡大した割に、レイアウトもプレゼンテーションシアターも受付的なウエルカムシアター、ライブエクスタランジシアターと教育用に分化し、ゆったりと実演場所を配置し、連邦政府保健アーキテクチャ、医療コミュニティビジネス(請求など)コミュニティなどのユースケース別のツアーを設定するなど、展示説明とも一層統合洗練が進んでいた。またこのフロアには、臨床&ビジネス分析インテリジェントナレッジセンター、クラウドコンピュータナレッジセンター、医療機器統合ナレッジセンター、モバイルヘルスマナレッジセンター、等ナレッジセンターが夫々かなりのスペースで設置され、今後重要となるACOに必要なグループウェアなどのプラットフォームに特化したeCollaboration Forumを設けていた。また、関心を引いたブースとしてインテリジェントホスピタルパビリオンがかなり大きなスペースを囲って、予約制で見学をさせていた。さらにすぐ近くに今回の主要テーマのモバイルヘルスやかなりの無線関連の大きなブースがありモバイル関連の関心の高さがうかがえた。まだケアの継続性の重要性認識が高まり、いくつかのコンソーシアムが統合されケア継続性コンソーシアムCCCの展示も行われていた。これらのブースの近くにスーパーコンピュータが配置されたような小間が繋がったミーティングやベンダー本部が大規模に配置されビジネスとしても大規模に拡大していることが実感できた。昨年は目に着いたONC関連のブースは大幅に縮小されSHARPプロジェクトなどもこちらに統合されていた。逆に今年は昨年インセンティブを\$3.1B支払い、HIMSS12に合わせMUフェーズ2の最終規則を発表したCMSが相談用ブースを設置していた。

(3) 現地の有識者との討議(オラクル社のプレゼンとQ&A)

日本オラクル社の紹介で、現地の医療技術の幹部と医療製品管理の技術マネージャーと2名の日本人スタッフの方から、オラクル社の医療ICTのグローバル戦略(従来の基幹製品の上に、情報を連結するConnected Health、次にデータを蓄積して活用するManagement Platform製品とNHS他でも実績のある最

良の Health Resource Management の合わせ 4 層を日本も含めて共通化していく。およびサービス内容に関しパワーポイントでのかなり詳細な説明を受け、幅広くオラクル社の強みをうまく発揮しビジネスを展開していることが理解できた。また日本人スタッフの方から日本の医療再生事業の捉え方とオラクルでのソリューションの説明があり、オラクルとして日本への対応戦略は米国で検討されていること、日本での具体的な対応は日本の状況を考慮しパートナーと一緒に柔軟に行われようとしていることが理解できた。グローバルな医療 ICT、米国の様子と日本への対応など幅広い情報交換が行われ有効な 2 時間を過ごすことができた。また翌日にインタオペラビリティケースでの説明およびオラクルブースでエキスパートの方からのデモンストレーション付の説明が行われ熱心な Q&A が行われた。

3. 考察と結論

今回は 2001 年に JAHIS が視察団を派遣から 12 回目となり、2005 年のテキサスでの HIMSS2005 からは米国の国を挙げた EHR 開発の立ち上げがあり日本からも JAHIS の視察団も含め 100 名以上の参加があった。その後政権交代を挟み EHR 開発指揮官である国家調整官 NC も第 5 代目が変わった。EU が比較的順調に加盟国が EHR 開発を順調に進めてきた中で、米国は市場原理と技術ベースで開発を進めたため、ビジネスモデルやプライバシー等の問題を抱え、色々な試行錯誤を繰り返し、民間ベースの PHR との混乱もあった。

しかし、2009 年からの新政権が、国の資金と責任による標準を法制化した EHR 開発方針で、EU との競争ではなく協調を進めたことで、今回の HIMSS で、現 NC が基調講演の中で今まで 20 年かかっても出来なかった EHR の適用を 2 年で実現でき、来年中には主要なケアを EHR で実現すると宣言し、2004 年に前大統領による 10 年以内に EHR を開発する大統領命令 13555 は何とか守られることになりそうである。今回 HIMSS 会長がベンダーの女性重役となり、急速に拡大多様化した HIMSS12 の演出を行い、大胆な整理統合とグローバルでビジネス面でのきめ細かな企画は参

加者に新たな展開を実感させた。彼女の話では、「一言でいえば、そこにジャングルがある。医療者は複雑な条件増えた患者の猛攻撃に直面し、より少ないものでより多くを行うことを頼んでくる。いっぽうで我々は 3 つの狙い：より良い保健、改善された質、より適切なケアによるシステムに対し、我々の複雑な保健提供システムを変換するまっただ中にある。」 HIMSS12 の参加者は幅広く、展示、ワークショップ、シンポジウム、教育セッションから医療 ICT のここまで変わったことを学ぶ機会を得ている。彼女の眼には、「タイムリーに、正確で、解釈できる情報を、患者の面倒をみる臨床医師、MU を達成するために働く ICT 専門家、医療の幹部はよりアカンタブルなケアの提供を増加する責任があり、市民はケアにつながることを欲している。」とコメントをしていた。一方では、JAHIS 関係以外の日本からの参加はかなり減っていた。今回視察団のメンバーがこの機会に恵まれた中で分担してできるだけ多くを把握し関係者とその成果を共有することができることが望まれる

